お天気解説 アキラのズバッと

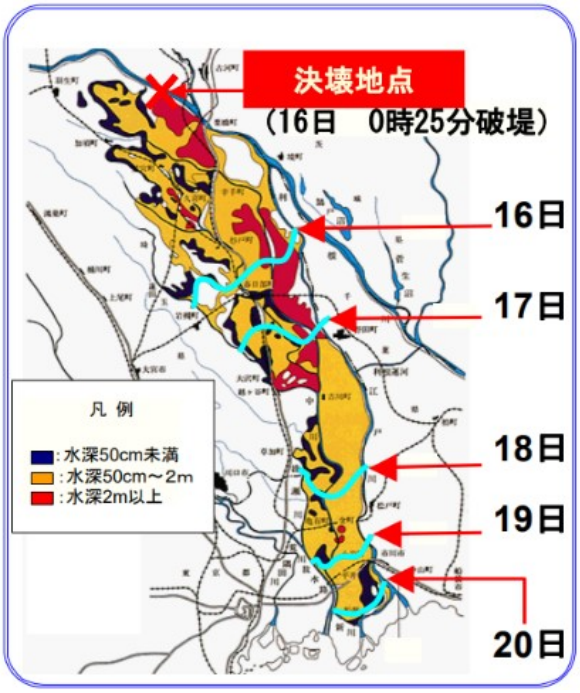
温暖化による影響シリーズ
「台風や大雨による災害」その３

線状降水帯が襲う豪雨
～江戸川区は線状降水帯が来ない時も注意が必要～

令和５年 10 月 20 日
江戸川区気象防災アドバイザー　藤井　聡

近年、注目されている大雨のパターンがあります。それは「線状降水帯」。線状降水帯は、発達した積乱雲の列です。これが同じ場所にとどまって発生し降雨を繰り返すため、大変な大雨になってしまうのです。

今から８年前の 2015年9月、台風第18号上陸にともなう湿った空気の影響で関東北部に線状降水帯が現れ、鬼怒川上流では 500～600mm 以上もの降水量を観測しました。この影響で下流の茨城県常総市付近で堤防が決壊しました。同市は 1/3 が浸水し、約4300人が家屋に取り残されヘリコプターで救助されたことは皆さんの記憶にもあることでしょう。



■カスリーン台風による氾濫の浸水状況
（江戸川区ＨＰより）

このような場面は江戸川区でも起きています。1947年「カスリーン台風」による洪水（右図）です。この時、群馬県前橋で 357.4mm もの降水量をわずか１日で観測、この水が利根川に押し寄せ埼玉県栗橋で決壊しました。この豪雨は、線状降水帯が関東北部に発生してもたらしたのではないかと私は考えています。濁流は江戸川区にも到達しました。写真（東京都都市整備局HP より）には流域の住民が総武線上を市川方面に必死で逃げ込む様子が残されています。このように、線状降水帯は、江戸川区から離れていても被害を及ぼすことがあるのです。

線状降水帯は、海面水温が高い時や台風接近時に発生しやすくなります。利根川や荒川上流で３日間の雨量が 400mm以上予想される時は、警戒が必要です。

次回の「台風や大雨による災害」は、「ゆっくり進む台風」というタイトルで話題を提供します。

2023年10月20日11時　気象庁　発表

日付		今日 20日(金)	明日 21日(土)	明後日 22日(日)
東京地方		曇時々晴	晴時々曇	晴時々曇
降水確率(%)		-/-/20/20	10/10/10/0	10
信頼度		-	-	-
東京 気温 (℃)	最高	27	22	20 (18～22)
	最低	-	15	11 (9～12)

東京地方の週間天気予報より
気象庁ＨＰから抜粋
（週末は寒気がやってきて朝は冷え込みそうです）